



軍事標記

昭和二十年一月

一月二十一日  
二月二十日

戰鬥詳報

野戰高射砲第七十九大隊

24085

整理番號第一

RS 05396

Cincpac-Cincpac



進達區分

進達先	整理番號	部數
第三軍司令部	第一號 第二號	二
高射砲司令部	第三號	一

目次

一 戰前之於此彼我形勢概要	6	1頁
二 戰前之影響及此之氣象地形住民地狀態	9	9
三 彼我兵力	10	10
四 交戰之敵團體號	10	10
五 機種機數裝備素質及戰法	14	13
六 各時期之於此彼戰經過及關係部隊動作 並連絡施設狀態	39	38
七 戰後之於此彼我形勢概要 翻誤過失其他參考事項	42	41
諸元覽表	43	43

死傷表

兵器損耗表

戰果一覽表

附圖

1 敵機航跡要圖

2 部隊配置要圖

3 通信網構成要圖

附表

1 射擊時元一覽表

2 兵器損耗表

3 戰果一覽表

4 賞 5 賞 6 誓 7 文 詞

一戰前於此彼我形勢ノ概要  
其ノ一我ノ形勢力

編成現地到着  
爾後ノ行動



大隊八師和十九年七月二十三日東軍作命甲第三七號ニ  
基キ野戰重砲兵第十七聯隊補充隊ニ於テ編成完結  
同年八月十日那霸上陸八月十五日任地(沖繩縣中頭郡讀谷  
山村)着爾後喜名座喜味伊良皆附近陣地ヲ占領シ北  
飛行場防空ニ任ス

現任務  
大隊八師作命甲第六八號ニ基キ昭和十九年十月二十二日以降  
其ノ一部(第一中隊及配屬機)ヲ座喜味附近ニ殘置シ北飛行  
場防空ニ任セムルト共ニ其ノ主力(本部第三中隊第三中隊及配

教育訓練

屬( )ヲ以テ那霸港ノ港灣團及港灣諸施設ノ掩護ノ爲上  
藏町若狭町西新町及垣花町附近ニ陣地ヲ占領シ防空ニ任シ  
タリ(部隊配置要圖別紙十七)如シ

十二月中ハ掩護構築其ノ他作業ヲ實施セシ爲教育訓練  
ハ毎日午前初ニ時間之ニ充當スル外持一週ニ三月八日  
羽日ヲ設ケタル程度ニテ充分トハ謂ヒ難キ状態ニアリタリ  
又北飛行場及中飛行場ノ留守陣地ニ殘置セル彈藥糧  
秣等ノ保存監督ヲ爲相當兵カヲ割カレ分隊固有編成  
ニ依ル訓練ハ甚ダ困難ナル状態ニアリタリ

本年入りテ諸作業モ略々完了シ又留守隊ノ長カヲ取小  
限ニ整理シ且人員ノ缺ハ初年兵ヲ以テ充足シ固定編成  
ヲ以テ訓練ニ専念セリ予定時間ノ訓練ハ勿論在空

ヲ令シ天與ノ間暇ヲ利用シテ戰技ノ向上ヲ圖リシ  
カ爲古年次兵ハ數次ノ實戰ノ經驗ト相俟テ益々伎  
倆ヲ向上シ十月ノ隊初年兵モ亦特殊射撃ノ外ハ概テ古年  
次兵ニ伍シ戰鬥ニ參加シ得ル域ニ到達セリ

而シテ教育訓練ハ昨年十月十日ノ敵機戰法ニ應ズル  
戰訓其他從來ノ戰訓ニ基キ左ノ點ニ特ニ重點ヲ指  
向シテ實施セリ

ノ急降下目標ニ對シテハ中隊長ノ適確迅速ナル射撃ヲ  
令ヲ訓練スルト共ニ固定阻止射撃ヲ演練セシ

乙不規行動目標ニ對シテハ中隊長ノ未末航路角ノ判定ヲ  
練スルト共ニ第一發發射迄ノ時間ノ短縮七番ノ航路角改  
裝ノ精度速度ノ向上ニ努メ第二發發射時機ノ精度点檢  
ヲ實施セリ

超高空目標ニ對シテハ砲撃射撃特ニ幹部就中分隊  
長ノ未末真距離ノ判定適確ナル修正量ヲ深刻ニ教  
育セリ

發射音其他ノ雜音下ノ号令命令ノ徹底ヲ及覆演練セ  
リ

### 築城ノ度

一月下旬那覇ニ陣地変換シ三月末迄ニ掘開式野戰陣  
地ヲ概テ完成シ爾後之ヲ補強及偽裝強化ニ努メアリ

### 戰鬪直前 ノ形勢

最近敵大型機ヨリ本島偵察頻リナルト機動部隊近海ヲ遊  
弋中ナルトノ情况ニ鑑ミ大隊ハ整シ急姿勢乙ノ態勢下至  
嚴ナル對空監視ヲ續行スルト共ニ陣地構築ノ補強及初  
年兵教育ト俟テ古年次兵ノ教育訓練ニ邁進シ  
アリニテ一月二〇二五軍ヨリ内陸戰備下令セラルルヲ警  
告ス

### 偵察

最近敵ヨリアトシ基地ヨリスル大型機ノ本諸島ニ對ス  
ル偵察行動頻リニシテ即チ一月六日〇九一三B29一機  
本島津嘉山東オニ二〇五B9一機南大東島上空ニ  
二五九機種不明大型機ハ重山南西ニ夫々現出同  
十一日一五〇B24一機永清上空ニ十五日一五九那覇北  
方高低角十五度附近雲中ヨリB24一機現出(1100~70)  
南下シ偵察ノ後三〇二西南方ニ機影ヲ没ス  
同十八日一二五B29一機那覇上空ニ現出ニ偵察ノ後東北  
方ニ機影ヲ没ス  
同二十一日〇八〇B24一機嘉手納上空ニ現出ニ偵察行動ヲ  
爲ス等嚴戒ヲ要セリ  
去ル二月三日四日ハ兩日本島ヲ攻撃セル敵機動部隊ハ

### 情報

尚台灣東方海上及南支那海ヲ遊弋シテ一月十五日  
一三〇〇捕捉位置台灣蒼鷺嶼金島嶼西々南二〇〇并  
本島南西二〇〇并海上ニアリ

同日七日軍情報ニ依レバ敵機動部隊三群補助艦ヲ  
増強シテ依然南支那海及台灣東方海面ニ遊弋シ  
アテテ間接的ニ呂宋方面ノ作戰ヲ支援セシガ為在  
支米空軍ノ策應ニ南西諸島台灣支那沿岸方面  
ニ對シテ増援遮斷攻撃ヲ再行スルノ算大ニシテ  
又「マリヤナ」諸島方面ノ別機動部隊ハ南西諸島台灣北  
島方面ニ増援スルノ微アリ

### ニ 戦闘ニ影響セリ及ボタル氣象地形住民地ノ狀態

#### 其ノ一 氣象

所々斷雲アリ雲高三〇〇米風速〇五〜一五米風向四〇〇  
氣温二六度〜二〇度氣圧七六三耗視程二萬米ニシテ敵機  
ノ發見射撃ハ容易ナリタリ

#### 二十一日

午前曇天午後晴天ニシテ日出〇七七日落八〇四月廿七九  
雲量九〜五ニシテ白斷雲多ク雲高八〇〇〜二〇〇〇米風速  
〇五〜一〇風向五〇〜六〇氣温二六度〜二〇度氣圧七六五耗  
視程二萬米ニシテ敵機ハ低雲或ハ斷雲ヲ利用シテ  
ガ發見射撃ヲ困難ナラシメタリ

#### 其ノ二 地形

本部 陣地北側ニ階建洋館、學校、遮蔽角約五度アリテ北方  
進入低空襲撃スル敵機ノ發見ニ稍支障アル程度ナリ  
第二中隊 陣地東南側ニ建立シタル三階建洋館(開洋館)ハ至  
ニ配置セル監視哨ニトリテハ最モ視界廣濶ニシテ至極ナリ

シモ遮蔽角ニ〇度ニシテ射撃ニテ射界ニ制限ヲ與フ

第三中隊 主トシテ港灣ニ對シ射界廣潤ナルト東南ニヨリ侵メス敵ニ對シテハ北方基場台地(約五度)南方小録台地(約五度)ニテ遮蔽角夫約四度アリテ之ノ兩方向ヨリ進入スル低空目標ニ對シテハ阻止射撃ニ依リ射撃ニシタル状態ナリ

配屬(約30A) 主トシテ港灣ニ對シ射界廣潤ナルト東側ニ鉄塔(約10)ニ柱アリ尚約十米ノ高地東南ニ走リ在リ遮蔽角十度アリ南側又八度アリテ西側ニ燈台(約30)アリ障礫ニ八度以下ノ射撃ニテ障ヲ末ス状態ナリ

其ノ三住民地ノ状態

ヲ爆音

本部陣地附近ニ自動車道路在リテ自動車ノ發動機音ト混同シ錯誤ヲ與ヘタリ

空襲警報發令セラルヤ陣地附近ニ蟻集ニ遂ニ敵機一機ハ機銃掃射ヲ加ヘ末レリ其ノ后通過部隊ハ校舎ノ中ニ遮蔽ス

三彼我ノ兵力

其ノ一我ノ兵力

ノ戰鬪參加人員

區分	將校	下士官	兵	計
本部	七	一四	六三	八四
第二中隊	四	一三	一三一	一四八
第三中隊	五	一二	一三三	一五〇
配屬 <small>(約30A)</small>	四	一三	一三二	一四九
計	二〇	五二	四五九	五三一

備考 第三中隊及配屬(約30A)中隊(北飛行隊空ノ分ヲ除ク)

乙兵器

備考	計	區分	ハハ七高	彈	藥	高	
						二式	八九式
		第三中隊	六	一八八七		一八四四	一〇四二
		第三中隊	六	二五七〇		一八九二	一六二八
		計	一七	七〇三四		一七〇一	一八七六
		備考				五四三七	三五四六

其ノニ敵ノ兵力

ノ末龍機教

大隈正面末龍機延約七四〇機ナリ

四交戦セシ敵ノ團隊號

敵米國太平洋艦隊第三十八機動部隊

其ノ一機種機教

- 1 グラマンF6F 約五〇〇
- 2 グラマンTBF 約一五〇
- 3 カーチスSB2C 約七〇
- 4 ボートシレスキーフ44 約一五
- 5 コンソリデーテッドB24 約二

其ノニ裝備

- 1 グラマンF6F 一七七機及ニ〇機機関砲教門五〇砲爆彈教個並ロケット砲二門ヲ塔載セルヤシ
- 2 グラマンTBF 一三七機及ニ〇機機関砲教門及五〇〇砲爆彈塔載セル
- 3 カーチスSB2C 機関砲教門及五〇〇砲爆彈ヲ塔載セルヤシ
- 4 ボートシレスキーフ44 不詳



其ノ三 素質

ノ三十日末龍機ハ急降下ニ於ケル降下角約六〇〜七〇度ニシテ、  
技術概テ優カナルモ本島航空基地ニ對スル牽制の末龍機ナルモノ、  
如ク戰意旺盛ナラス

乙二十日末龍機ハ去ル〇〇空龍時ニ比シ其規模更ニ大ニシテ侮リ  
難キ戰意ヲ以テ末龍機シ其ノ急降下或ハ不見行動巧ニテ砲爆撃ヲ  
ノ精度概テ良好ニシテ相當訓練セラレマリ素質概テ優カナリ  
其ノ四 戰法

ノ慣用戰法

(1) 巧ニ断雲或ハ低雲若クハ太陽ヲ利用シ小編隊ニテ急降下或ハ超空  
空ヲ以テ主トシテ飛行場諸施設ニ對シ砲爆撃ヲナシ時折急降  
下途中高度五〇〇附近ヨリロケット砲ヲニ發同時ニ發射ス

如シ又我火炎ヲ認ムルヤ不規ニシテ小下ル 蛇行ヲナシ又ハ攻撃ヲ  
ヲ中止シ主トシテ海上ニ逃避スル等對空砲火ニ對シテハ相當ニ銳敏  
ナル行動ヲナス

(2) 急降下ニ方リテハ約二〇〇米ヨリ約五〇〜六〇米迄降下角六  
〇〜七〇度ヲ以テ降下ス

(3) 編隊が高射砲ノ威力圈内ニ入ルヤ間隔ヲトリ單機縱隊トナル  
ヲ通常トス

乙 特異ナル戰法

- (1) 極メテ長時間ニ亘リ波狀攻撃ヲ實施セリ
- (2) 急降下安着地ノ際最後尾ノ一機ハ先頭機(群)ヲ射撃シ火  
光ニヨリ陣地ヲ標定シ中隊龍機撃ヲ急降下ヲナス
- (3) 巧ニ雲ヲ利用シ一隊ハ雲下ニテ高射砲隊ヲ牽制シ他ノ一隊ハ  
雲中ヨリ目的物ニ向ヒテ急降下セシコトアリ

六名時期ニ於ケル戦闘經過及關係部隊ノ動作  
並ニ連絡施設ノ状態

其ノ一各時期ニ於ケル戦闘經過 一月二十日ニ於ケル戦闘

〇五二七 大隊ハ最近ノ情况ニ鑑ミ本林高作命第三七號ヲ以テ警告急

姿勢乙ノ態勢カニ轉移シ拂曉時ノ警告ヲ嚴ニス

〇七一〇 B29ラシキモノ近接中ナリ情報ニ基キ至嚴ナル對空監視

ヲ續行ス

〇七四五 B24那覇ニ向テ情報ヨリ尚一層對空監視ヲ強化シ至嚴ナ

ル警告ヲ續行ス

〇八〇〇 高射砲司令部ヨリ戦闘姿勢ニ轉移セヨノ命令ヲ受領ス

〇八〇六 四八〇〇方向雲中ヨリB24一機現出南進スル

ヲ發見滿ヲ持シ待機シアリタル大隊ハ之ガ撃墜ノ機ヲ監視

セシモ該機ハ我軍威力圏外(自割高)ニ侵入スル

ニシテ射撃ヲ得ヌ同機ハ〇八二〇大嶺岬沖合ニ至リ北進

ニ及轉移シ末ルモ尚威力圏外ニテ射撃ヲ為シ得ヌ

〇八二三 小録飛行場附近ニ陣地占領シタル海軍高射砲隊(二二高)

ノ射撃ヲ受クルヤ急速ニ高度ヲ低下シ南方ニ向テ變

換シ六三〇西南方雲中ニ機影ヲ没ス

〇九〇〇 其ノ後敵機ニ關シ新報ヲ得ズ警告急姿勢カ乙ニ轉移シ

尚至嚴ナル對空監視ヲ續行ス

一〇二五 軍ヨリ南西諸島全地區丙號戰備下令セラレ大隊ハ警告

急姿勢甲ニ轉移シ待機ス

一一一〇 敵機近接中トノ情報ニ依リ大隊ハ戦闘姿勢ニ轉移ス

一二四〇 軍司令部ヨリ「敵機大編隊三十機ニ近接中」ノ情報アリ

一二四三 次デ「與座嶽四機侵入」ノ情報アリ

一二四五 次デ高射砲司令部ヨリ「六機編隊北飛行場襲撃中」トノ情報

アリ満ヲ持ス

二四八

敵ハ我ニ對シテ西ノ方ニ機編隊三三〇六度方向高地  
上空ニ現出シ三三〇五機ハ編隊ニ分レ夫々高度差(H4400 H3000 H2000)  
ヲ以テ逐次小録上空ニ進入シ来ルニ對シ大隊長ハ小録上空ニ  
敵編隊火命集中ヲ令ス機ヲ失入各中隊ハ射撃ハ該編隊ノ  
中央及前部ニ彈幕ヲ構成シ爲ニ該編隊ハ攻撃ヲ企圖ヲ  
放棄シ編隊ヲ乱シ航速ヲ早メ倉皇トシテ北ヲ遁走ス  
(別紙要圖一ノ参照)

一一五〇

續イテ同様方向高地ニグラマシフ四機編隊現出シ来ルヲ  
以テ大隊長ハ續ク四機編隊火力集中ヲ令ス該編隊ハ小  
録町上空附近H2600ヨリ飛行場諸施設ニ對シ單機縱隊ト  
ナリ急降下(降下角約六五度)砲撃ヲナシ来ル  
各中隊ハ急降下若ハ急降下直前ノ該編隊機ニ對シ猛烈  
射撃ヲ行ハシメ各機ハ墜落シテ飛行場附近ニ墜落ス

一一五三

得此ノ我カ射撃ヲ依リ内一機ハ急降下途次H1400上目射撃ヲ  
海上ニ遁走ス他ノ三機ハ飛行場附近ニ急降下目撃ヲナシ  
蛇行ヲナシツ西北方海上ニ遁走ス(要圖一ノ参照)  
次テグラマシフ四機編隊ハ〇七度方向ニ現出シ西南遁(H約  
3000)シ来リ波之上宮沖約五〇米上空附近ヨリ飛行場ニ  
對シ急降下襲撃ヲセントスルヤ第三中隊及既屬中隊之ヲ掃  
捉信管射撃ヲ以テ一激撃ヲス

一一〇七

該機ハ前後ニ炸裂スル彈幕ヲ繼ツテ飛行場諸施設ヲ砲  
撃シ蛇行ヲナシツ西南方ニ倉皇トシテ遁走ス(要圖一ノ参照)  
敵機ハ西南方洋上目測直距離約二五浬附近ニテ編隊ヲ三機  
ヲ整正ハ西南方ニ脱去セリ  
斯クテ上空ニ敵機影ヲ認メ

一一二五

沖繩本島全地空襲警報解除ニ依リ本林高休命第三三號ヲ

以テ警急姿勢ヲ甲ニ轉移ス  
一二三〇 敵機脱去後新報ヲ得テ森高亦命第三三號ヲ以テ警急姿勢乙ニ轉移ス

一月三十日ニ於ケル戦闘

〇五五八 昨日ノ敵龍巻ニ鑑ミ大隊ハ警急姿勢乙ノ態勢カニテ拂曉時ヲ表龍巻ニ備ハ嚴戒ス

〇六二六 海軍部隊ヨリ敵大編隊近接中トノ情報ヲ受領ス

模ノ模様トノ情報ヲ受ケ満ヲ持ス

〇六三五 空襲警報發令ト共ニ戰鬥姿勢ヲ轉移ス

〇六三五 軍司令部ヨリ「敵機ハ三十分後ニ東龍ノ苦」トノ情報ヲケ愈々緊張ス

〇六四〇 海軍部隊ヨリ「五十四分敵機ニ編隊間隔四〇并ニテ近接中」トノ情報ヲ受ケ

〇六四二 軍司令部ヨリ「敵機ハ後十分ニテ東龍ノ予定」ノ情報ヲ受ケ  
〇六四五 軍司令部ヨリ「敵機系滿上空」ノ情報ヲ受ケ該方向ノ監視ヲ嚴ニス

〇六五四 監視者ハ「三軍兵新井一應」折カラノ日出ノ為東南方雲間

南北ニ走ル一線ノ晴間(三六〇ニ度)ニ敵グラマコF6Fニ機北進(毎測距距離約三〇〇米)スルヲ發見ス

19 〇六五五 東南方ニ三機飛行場ニ向編隊爆音アリ

爆音ハ漸次近接シニ四〇〇三〇度ノ雲中ヨリ「グラム」機四機編隊現出シ飛行場ヲ襲撃セトスルヲ發見シ大隊長ハ直ニ「グラム」機四機編隊火カ集中「ヲ」令シ信管射撃或ハ鋼測射撃ヲ以テ猛烈ナル砲火ヲ浴ビセハ折カラ「曉」機ニ比隣防「ヲ」務ヨリ「ヲ」對空砲火トモニ火線錯綜シ凄絶ナル邊撃戰ヲ開始ス

〇八〇七 (夜手夜)

爾後〇八五ニ至ル間ニ分乃至五分或ハ一分乃至二〇分間ニ十七回次ニ互リ延一〇八機主トシテ小録飛行場諸施設ニ未龍未シ末ルヲ都度好機ヲ促ヘ之ヲ邊撃シ敵機ハ龍撃ヲ阻止或ハ企圖ヲ放棄セシメ併而左ノ戰果ヲ收メタリ(別紙要因ニテ参照)

配屬中隊(〇八)ハ南才(三三〇三三度)ヨリ急降下ニテ小録飛行場ニ對シ龍撃ヲ末ル「グラム」機三機編隊(四六〇七二〇)

近ニ炸裂衣シ中ニ番機ハ尾翼ヨリ黒煙ヲ噴キ「ニ」度ノ降下角ヲ以テ急速ニ速度ヲ低下シ「ニ」西北才(五三〇三三度)海ニ低迷シ「ニ」暗雲中ニ没入撃墜確認シ得ヌ

同隊ハ引續キ同才向(三四〇三三度)ヨリ急降下龍撃ヲシ「ニ」ル「グラム」機三機(四五〇七二〇)ニ對シ轉シ信管射撃ヲ一齊射一發(四秒)續テ一齊射一發(三秒)ヲ猛射セバ敵編隊至近四周ニ彈幕ヲ構成シ中ニ番機(四〇〇六度)ノ左翼前部ヲ撃破一瞬ハ入ト思ハレタレモ該機ハ急速ニ速度ヲ低下機体ヲ動搖シ「ニ」黒煙ヲ曳キ降下角ニ度ヲ以テ五〇〇三度才向ノ互稜線彼才ニ機影ヲ没スルヲ中隊長以下之ヲ確認ス(兩機共撃破分隊判然トセス)(別紙要圖三ノ①②参照)

第三中隊ハ東南才(五〇〇三三度)雲中ヨリ現出セル「グラム」

(撃墜)

ンF6F四機(H800V110)小録飛行場ニ急襲砲爆  
 撃ヲサソトスルヲ捕獲シ信管ヲ射撃す(三機)ヲ以テ急襲  
 不確實(阻)止射撃ヲ實施セテ射弾克ク急降下シツアル四機ノ中  
 央ニ炸裂シ内ニ機ハ機体ヲ動搖セシメ其ノ中一機ハ左翼  
 ヨリ黒煙ヲ噴キツ、速度ヲ低下シ三八〇〇度才向小録鉄  
 塔ノ右一〇〇密位(十機對空双眼鏡)ニテ和田一等兵確認  
 他ノ一機ハ右翼ヨリ黒煙ヲ噴キツ、高度ヲ急ニ下ケ  
 四〇〇〇方向先原崎燈台ノ右二〇〇〇密位ノ地平線ニ(第五  
 分隊長渡邊伍長確認)機影ヲ没ス

(別紙要圖ノ四〇参照)

上司並大隊長  
指示注意

本戰闘間上司並大隊長指示注意事項

〇七一〇

着イテ射撃ヲセヨ射耗彈ヲ知ラセ」ノ注意並指示ヲナス  
 續テ各隊ヨリ射耗彈ニ鑑ミ「各隊彈藥ヲ節用セヨ追射  
 チヲ禁ズ」ノ注意ヲナス

〇七二〇

高射砲司令官殿注意事項受信ス  
 「追射ハ絶對禁止ヨ彈藥ガ少イカラ射撃ハ落着イテ彈藥  
 ノ節用ニ努メヨ」

第二波

自〇七三〇  
至〇九二〇

ノ間三分乃至五分ノ間ニ主トシテ南ニ及東南方ヨリ八機乃至十  
 二機編隊ヲ以テ五回次ニ互リ延五〇機小録飛行場諸施設ニ  
 對シ急降下砲爆撃ヲナシ其ノ都度大隊火カ集中或ハ  
 中隊各個射ヲ以テ之ヲ急襲スルハ好機ヲ捉ヘテ猛烈過確

ナル射撃ニ敵機ハ倉皇ニシテハ急降機ヲ翻シ或ハ横轉  
シ或ハ急降下途次急上昇スル等敵ヲシテ攻撃企圖ヲ断念  
セシメタリ(別紙要圖ノ五参照)

上司大隊長  
注意指示  
〇八四〇

本戦闘開始上司及大隊長注意指示事項左ノ如シ  
大隊長ハ〇八三七敵十二機編隊飛行場龍撃ニ際シテノ各機  
ノ射撃ニ鑑ミ左ノ如ク注意ヲナス  
各機落着イテ射撃セヨ好機ヲ捉ハ一隊射一發ハ隊上ヲ期セ

第三波  
自〇九四〇  
至一〇四五

間三分乃至五分(或ハ)分ヲ間ニ五回次ニ且リ延三三機ヲ以テ中隊  
陣地或ハ飛行場ニ龍撃ヲシテ捕獲シ之ニ對シH100ヲ以テ群射  
タリ(別紙要圖ノ六参照)

〇九五五  
(敵手隊上)

第三中隊ハ東方ヨリ「グラマン」F6F六機編隊小録飛行場  
ニ對シ龍撃ヲシテ末ルH150ヲ捕獲シ之ニ對シH200ヲ以テ群射  
(五發)ヲ實施スルヤ射撃ハ中隊ニ炸裂シ四機ハ編隊ヲ崩シ南西  
方向ニ逃避セルモ後續セル二機ハ中隊向ヒ急降下ヲナシテ  
ヲ以テ中隊長ハ機ヲ失セテ航路角中央ヲ令シ第三群射隊  
ニ四分隊各門一發スルヤ中一機ハ一六〇方向ノ那西朝郵便局  
上空附近ニ於テ左羽翼ノ先端飛散及胴体ニ被弾黒煙ヲ  
噴キ出北ノ海中(波ノ上宮約五并ニ突)ニ墜ル隊長等第二回  
分隊長確認(別紙要圖ノ七ノ五参照)

〇九五九  
(敵手破)

既屬中隊(敵機)ハ南才(三六〇)ニ度ヨリ急降下龍撃ヲセルケ  
ラマン「F6F」七機ヲH500ヲ激撃シ信管射撃(四秒)一隊  
射一發ヲ續イテ(三秒)ニ群射一發ヲ猛射スルヤ三番機(四〇  
〇八度)ハ尾羽翼ヨリ黒煙ヲ噴キ三度ノ降下角ヲ以テ急降

ニ速度ヲ低下編隊ヨリ離脱陣地北ノ高地(五〇〇三度)  
ニ突入スル如ク丘陵彼方ニ機影散見シ中隊長以下之ヲ確認ス

(別紙要圖七ノ参照)

一〇一六

(撃墜)

第三中隊ノ東南方ヨリ「グラマニフ」四機編隊那覇西端上  
空(五〇〇〇)ニ於テ方向変更操縦ヲ龍巻撃セントスルマ信管  
射撃(三秒)ヲ以テ射撃(六發)ヲ實施ス射撃ハ克ク敵ノ  
前後ニ炸裂シ三番機ハ機体ヨリ火ヲ吐キ先原崎燈台  
方向ニ低空旋回シ燈台左五〇〇米位直距離約十秒ヲ發動  
機停止シ海中ニ没入(中隊長確認観測班長測高機ヲ確認)

(撃墜分隊判然ト兵別紙要圖ハノ⑥)

一〇一七

(撃墜)

配屬中隊(八南)ヨリ龍巻撃ス「グラマニフ」四機ヲ捕提  
20全火力ヲ集中シ「スルマ」降ニ番機ハ機関部ヨリ機體ヲ噴キ

高機長監視班長之ヲ追隨監視スルニ大嶺岬海上ニテ「カ  
ロ」ヲ廻轉停止スルヲ見ル然ニテ同十八分該機ハ四六〇三度  
方向ニ於テ水煙ヲ上げ海中ニ突入セリ(別紙要圖ハノ⑦参照)

上司大隊長 本戦闘間ニ於ケル上司及大隊長ノ注意指示事項  
注意指示

一〇〇九

一〇三〇

第二中隊ノ射撃追射ヲ傾向アルニ鑑ミ左ノ注意ヲナス  
若狭中隊ノ追射ヲ止メ  
高射砲司令官殿ヨリ機電アリ

北飛行場関係ノ掩護部隊ノ戦果大ニ那覇部隊モ沈着初撃  
必墜ヲ期セ



28 第四波

自一〇〇  
至二四五

間三機乃至五機編隊ヲ以テ二分乃至四分或ハ五分間ニ低雲斷  
雲或ハ陽光ヲ背ニシテ急龍的ニ飛行場ヲ襲撃シ来ルニ對シ  
大隊ハ都度之ヲ邀撃シ左ノ戦果ヲ收メタリ(別紙要圖九参照)

一一二五 第三中隊ハ西南ヲヨリ敵ヲチスル及クニマニF6F十二機

(撃破) 編隊大變シテ小録飛行場ニ急龍本スルヲ中隊長ハ直ニ

急龍阻止射撃ヲ(信管三秒)一併射(五發)ヲ實施シ續テ信管

二秒一併射(四發)ヲ實施スルヲ射撃ハ上昇セシメ敵機群ノ中

央ニ炸裂シ十一機ハ西ヲニ逃避シ残ル一機ハ主翼部ヨリ火焰ヲ

噴キツ、西北方海上低雲中ニ遁走セルヲ中隊長及指揮班大

和田軍曹確認ス、撃破分隊ハ第二四分隊(別紙一〇)参照

イテ一併射(三秒)ヲ發射シ集中スルヲニ番機ノ尾翼及

三番機ノ左翼ヲ撃破セシメルヤ他ノ二機ハ蛇行分散遁走セル

モ該機ハ急速ニ速度ヲ低下機体動搖シツ、黒煙ヲ曳キ降

下角ニ度ヲ以テ(五〇〇三度)ニ向、丘稜彼方ニ機影ヲ没スル

ヲ中隊長以下之ヲ確認ス(撃破分隊判然トセス)(別紙一〇)参照)

上司大隊長 本戦闘大隊長ノ指示注意事項左ノ如シ

指示注意 二五〇 各隊射撃距離ヲ知ラセ

二五五 各隊彈藥ヲ節用セヨ追射ナスルナ

第五及六波

ノ間ニ分乃至三。分ヲ周シ四回次ニ互リ延三四機主トシテ飛行場  
及港灣ニ對シ束籠スルヲ大隊長ハ都度火力集中ヲ令シ左ノ戰  
果ヲ收メタリ(別紙二参照)

一三五四 第三中隊ハ那覇上空ヲ左旋回シ、東方雲中(2000)ヨリ現出  
(擊墜) 小録飛行場ニ急降下銃爆撃(三秒)一機ヲ射撃シ實施ス  
(擊破) ルヤ射撃ハ編隊ノ中央ニ炸裂シ後續機一機ハ瞬間機体

下部ヨリ火焰ヲ噴キ西南方小録鉄塔左ノ五〇密位才向丘稜  
線彼方ニ急入スルヲ中隊長及第一少隊長確認ス  
他ノ一機ハ左翼部ヨリ黒煙ヲ吐キツ、先原崎燈台上空ヲ旋  
回南才海上雲中ニ遁走セルヲ中隊長以下確認ス(兩機共擊墜  
破分隊判然トセス)(別紙要圖二、(10)参照)

上司令官  
指示注意

本戰鬪間上司令官及大隊長ノ指示並注意事項左ノ如シ

一三〇〇 大隊長ハ本戰鬪ニ於テ第三中隊陣地至近ニ爆彈落下セルモ  
「全員異常ナシ益々元氣旺盛ナリ」報ニ對シ、如ク機電ヲ發ス  
「ヨシ元氣テヤ」中隊長以下健闘ヲ謝ス

一三一〇 高射砲司令官殿ヨリ左ノ機電アリ

「北飛行場掩護部隊ハ自〇ハ〇間末襲撃ハ機中五機撃墜  
ノ戰果ヲ收メタリ在那覇部隊モ奮勵セヨ」

一三四〇 高射砲司令官殿ノ注意左ノ通り

一 追射ヲ禁ズ再ニ注意スル處ニテ追射ナスル中隊アリ彈藥  
節用並効果上戒ハスルヲ要ス宜シク侵入目標ニ對シ精密ナル  
諸元ヲ以テ沈着偵ニ初彈必墜眼前ノ中ヲ期スベシ

二 射撃過剩或ハ機ヲ失スル部隊アリ航速ハ機種ヨリ判明シアル  
ニ付高度測定ヲ行ハシ敵機ハ高度判定スルト共ニ最も有力ナル

地点於テ間髪ヲ入レス一群射ヲ送ル如ク更ニ注意セヨ要ス  
 三發射彈數多キニ失スル部隊アリ屢々注意スル如ク現ニ保有シ  
 アル彈藥ヲ以テ大東亞戰爭ノ全期ヲ通ジテ使用スベキヲ明カニ群  
 射ノ彈數ヲ更ニ限定スルヲ要ス以上注意ハ部下中隊ニ確實員ニ  
 達スル様切望ス

第七波

自三五〇  
至五四〇

一 間三分乃至五分ヲ間シ急降下若ハ超低空ヲ以テ四回次延十六機  
 末龍衣スルヲ全火力集中或ハ各個ニ之ヲ邀撃シ敵機ヲシテソノ  
 企圖ヲ断念セシムル等多大ノ効果ヲ收メタルモ確認セル戰果ナシ  
 (別紙要圖一三參照)

第八波

自一三五〇  
至一七四〇

一 間八分乃至十分ヲ間シ九回ニ互リ延四十三機執拗ニ末龍衣シ末  
 ニ對シ大隊全員ハ長時間ノ間断トキ戰驟ニモ拘ラズ徹底ノ  
 疲勞モ見セズ敢然之ヲ邀撃シ敵機ヲシテ空ヲ分解シシムル  
 等左如キ痛烈極リナキ戰果ヲ收メタリ(別紙要圖一四參照)

一六〇〇

(撃破)

配屬中隊ハ西方ヨリ龍撃スル「グラマン」四機ヲ捕提シ  
 向四〇〇ニ至度全火力集中(H2000/2000)ニ二番機左翼前端ヲ  
 撃破セシムシ機ハ大動搖シ降下前ニ三度ヲ以テ逐次高度ヲ下ケ  
 西北方ニ向テ六三三〇ニ至度雲中ニ機影ヲ没スルヲ以テ隊長以下確  
 認ス(撃破機隊別然トセス)一機ヲ要圖一五(參照)  
 一六〇四 第二中隊ハ五四〇ニ至度「グラマン」三機ヲ捕提シH2000/1000  
 (撃破) 5200ノ諸元ヲ令シ五六五〇ニ至度ニ於テ之ヲ射撃セルニ第六分

隊ノ發射セル射彈ハ二番機右ニ三位ニ炸裂敵機ノ機体ハ動揺スルヤ不ロヤ編隊ヲ脱落急激ニ高度ヲ下ケ海面ニ向ツテ降下低雲中ニ機影ヲ没スルヲ中隊全員確認ス別紙要圖五ノ參照

一六四二 既屬中隊(中隊)ハ西南方(四〇〇)方向太陽ノ左下方(三〇)ヨリ陣地ニ

(撃墜) 向ヒ急降下龍巻撃ヲセシメスルヲグラマン機三機編隊ニ對シ信管(四秒三秒)射撃ヲ以テ二群射ヲ命ジ花セリ目標ハ高低

再 十八度附近ニテ航路角八〇〇方向ニ移行セルヲ以テ機ヲ失セスニ群射ヲ發射スルニ二番機胴体ニ車轉然命中機体ハ瞬時ニ方向三六〇(一五度)附近ニ於テ白煙ト共ニ塔乗岸後部ヨリ空中飛散機関部ハ分離シ落下ス

此ノ際ノ射撃ヲ諸元ハ左ニ五〇低ク五五度ナリ(信管ハ豫メ決定セル三秒ヲ使用)

機ハ飛行場東南側五〇米中隊陣地西南方ニ并ニ畑地ニ機関部ハ地中一米餘突入目下炎燒中ナリヲ確認歸隊セリ

(撃墜分隊判然トセス) (別紙要圖一六(1)參照)

右戰果ニ對シ大隊長ハ既屬中隊ノ功ヲ稱ヒ

「才芽出度ク眼前撃墜ヲ祝ヒ」ト祝詞ヲ送ル

一八〇八 大山嶺岬西方ヲ「グラマン」四機北進シ雲中ニ機影ヲ没シタル

後ハ全ク敵機影ヲ認メス

一八五〇 大隊ハ空龍長敬告報解除ト共ニ警戒ハ安執力之ニ轉移ス

一九二五 日既ニ没シタルトシ同夜那霸上空ニ進入ス大機ハ直ニ墜落

勢ニ轉移ス

一九三〇 上空ニ二機編隊ヲシキ爆音マド敵機全ク見エス

一九三五 小録飛行場附近ニ砲撃ス

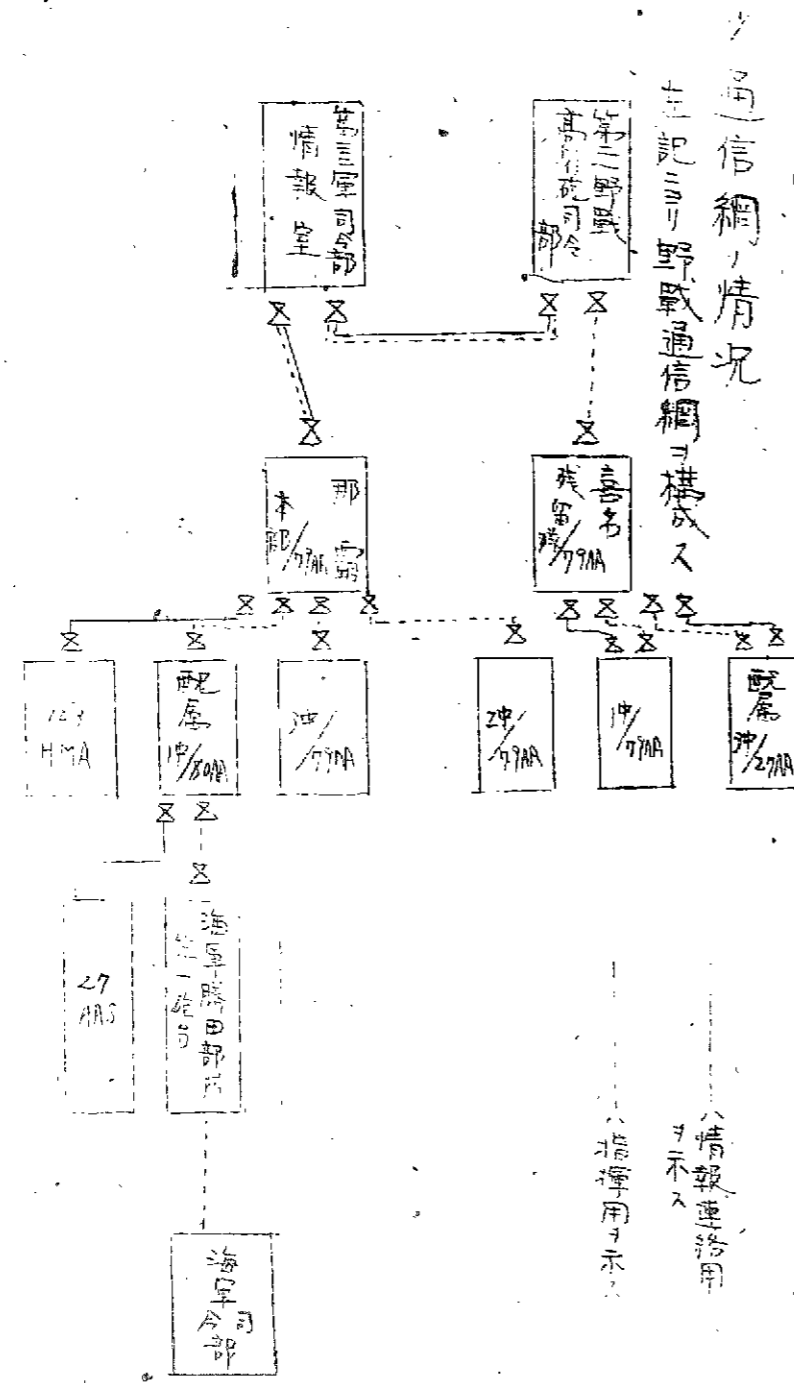
一九四〇 爆音ハ北進シ島中隊上空ヨリ六三〇〇方向海中ニ「ロケット」砲彈散

個ヲ投下シ東南ニ墜テ爆音消シ  
二〇〇。其ノ後新報ヲ得テ敬言急変勢ヲ轉移ス

其ノ二 關係部隊ノ動作

小録飛行場四周ニ海軍勝田部隊第一砲台軍(十二挺高射砲隊並機  
関砲隊)アリテ同飛行場防空ニ任シアリ同飛行場北側ニ陣地占領シテ  
配屬(19/80M)中隊ハ海軍司令部ヨリ情報ヲ海軍正木隊ヲ經テ受領シ  
之ヲ大隊本部ニ送信シ末リ大隊ノ行動ニ多大ノ便益ヲ與ヘリ  
本戦闘ニ際シテモ次ギク入手スル同情報ニ大隊ノ行動ヲ容易ナラ  
シメタリ(附録情報欄參照)

其ノ三 連絡施設ノ状態



通信網ノ處置情況

陣地附近ハ敵銃砲爆撃ヲ受ケル公算大ナルニヨリ  
建設ニヨリ被害ノ減少ヲ計ル

3 戦闘間ニ於ケル處置事故情況

銃砲爆撃ニヨリ損傷皆立ニテ戦闘間事故ニ...

七 戦闘後ニ於ケル彼我形勢ノ概要

其ノ一 我ノ形勢

次期作戦準備

今次空襲ニヨリ敵ハ本島高射砲陣地ヲ知悉セル狀況  
ニ鑑ミ戦闘終了スルヤ高射砲司令部ヨリ命ニヨリ  
大隊長ハ徹宵陣地ノ偽裝掩護遮蔽ヲ實施シ  
次回陣地襲撃ニ備ヘルト共ニ射流彈藥ヲ蓄積  
殘留隊ヨリ補充セント企圖ニアリ

部隊行動

依然現陣地ニ在リテ前任務ヲ續行スルト共ニ本戰訓  
ニ據リ教育訓練ヲ實施シタリ

大隊長、戰鬪終マズルヤ各中隊ニ對シテ左記言示ヲナシ  
長時間、奮闘ヲ多トス殊ニ戰鬪ノ掉尾眼前擊  
撃ヲ見ル共欣快トスル處ナリ  
各隊ハ明日ノ未襲ニ備ヘ益々整意成テ嚴ナラシムルト共  
ニ陸地ノ掩護爲テ、遮蔽ニ遺憾ナラシムルハナシ

御嘉賞ノ言葉

二十三日戰況上奏ニ際シ本戰鬪戰果ニ關シ思ヘクモ  
御嘉賞ノ御言葉ヲ賜ハリ大隊將兵一同愈々奮  
躍聖慮ニ副ヒ奉ラント期ス

兵益々志氣旺盛愈々訓練ノ精到ヲ重ネ初陣必墜以テ  
重任ノ完遂ヲ期セントス

誓言文

前項ノ如ク御嘉賞ノ御言葉並賞詞ヲ賜ハシ恐懼感激  
別記誓言文ニ基ツキ愈々奮勵ヲ期ス

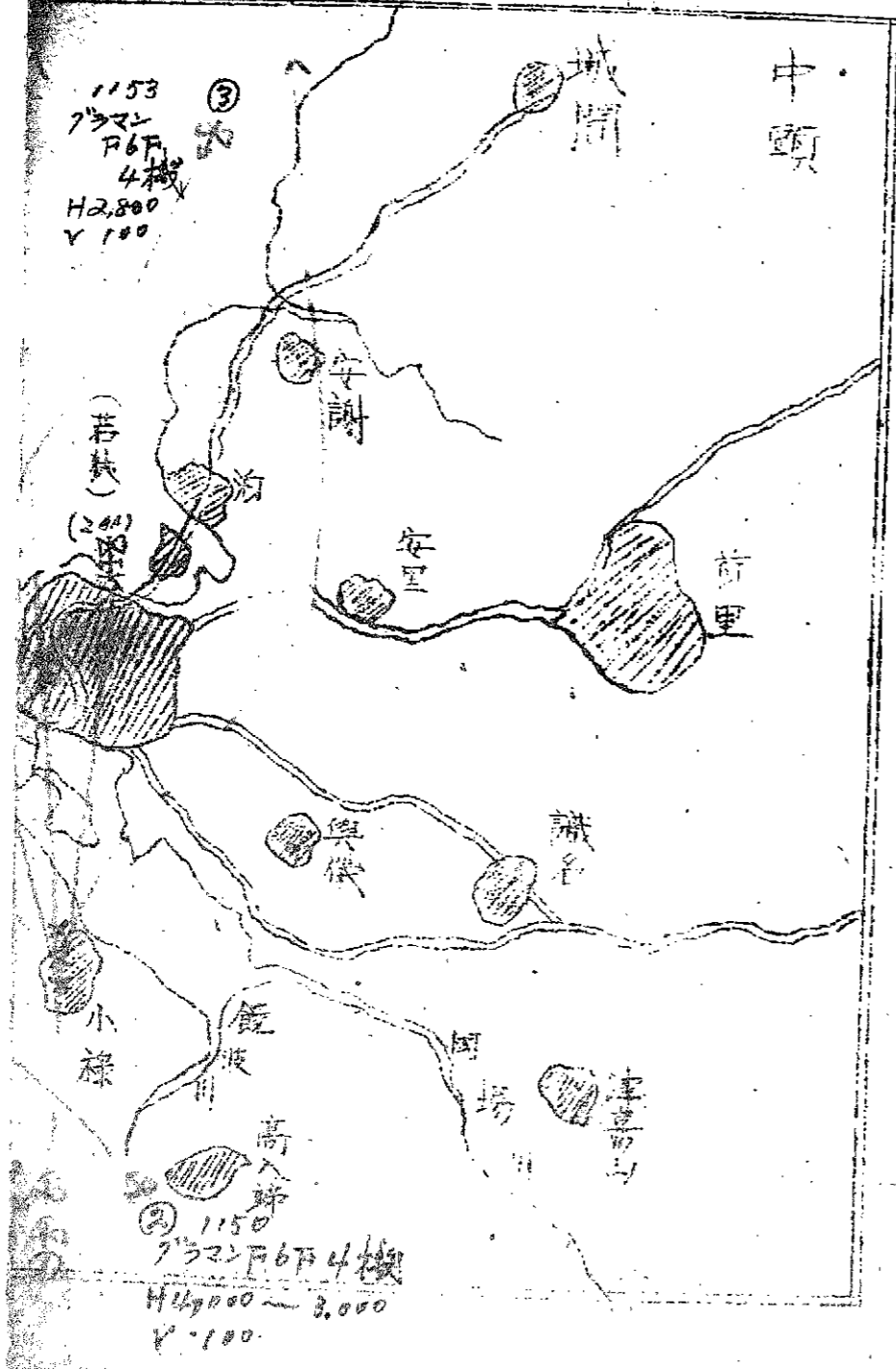
其ノニ敵ノ行動

敵機動部隊、依然近海ニ游ビシアルモ、如ク南洋諸島ニ對  
スル出撃準備ナシ大ナリ

八齟誤過失其他参考事項

41  
人高度射撃ニ於テ末來航路角修工過小ナル事ナリ  
又發射號令ニ遲レテ射撃セル爲ニ、射撃手ナセル分隊リ

野戰高射砲第十七



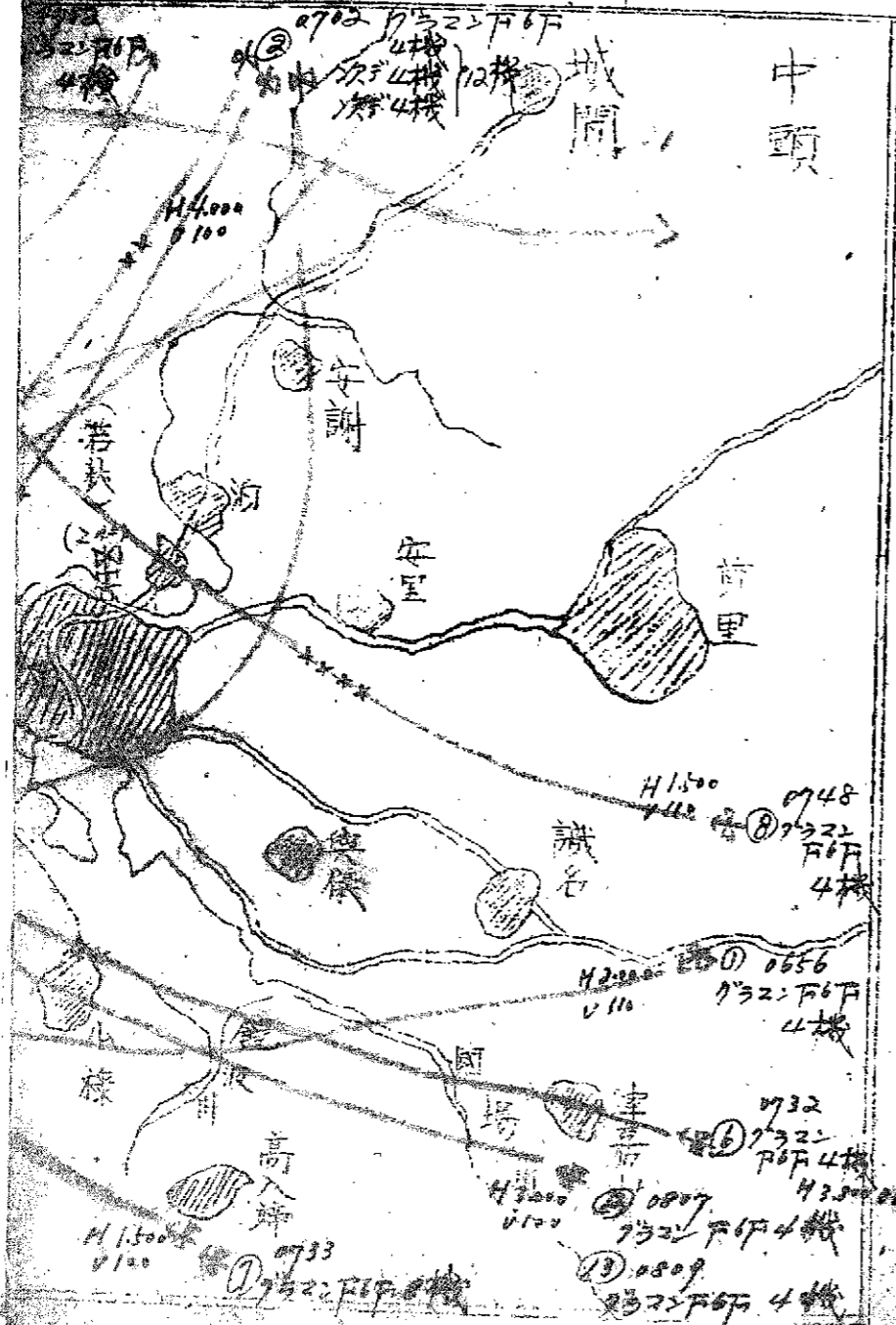
附記

大隊主力那霸港防空、為轉出之際、殘置シタル  
 第一中隊及配屬(中隊)中隊、本戰鬪間座喜味附近  
 三陣地占領シ北飛行場防空掩護ニ任シタリ  
 其詳報別冊戰鬪詳報、如シ

44  
 十一兵器損耗表別紙附表第三、如シ  
 十二戰果一覽表別紙附表第四、如シ



野戰高射砲第七十七



大豚

自一月十一日十一時十分至  
至一月十二日十一時三十分

一、其圖要報詳開戰  
(野戰要主機敵)

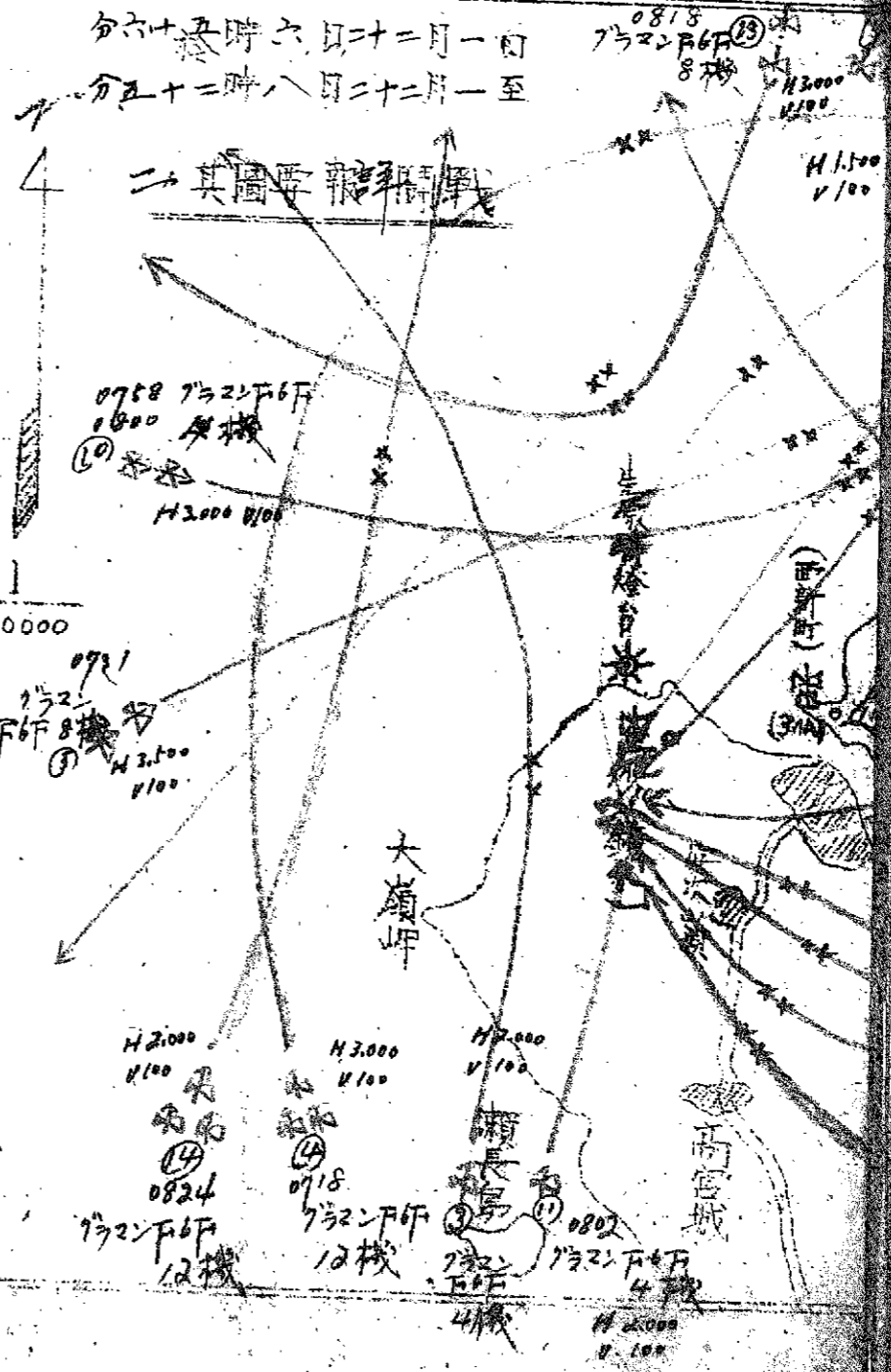


○内ハ來襲回突ヲ示ス  
ハ射擊位置ヲ示ス

西南方約二五料  
海上三三線隊



大隊 (第一波主要航形)



分六十五時六日十二月一日  
分五十二時八日十二月一至

其圖等報詳詳

この図は、大嶺岬の西側の飛行ルートを示している。

隊大九十七第砲射高野

【轟那於分七時八日十二月一日至分七時八日十二月一日至】

(破陸象) 圖要報 砲射

1	0807	F6F	3	1/2機	600	120	3機	10	500	120
2	0807	"	3	"	500	120	4機	10	500	120

中隊

この位置に下の四機を  
×の射撃機一機を配置する

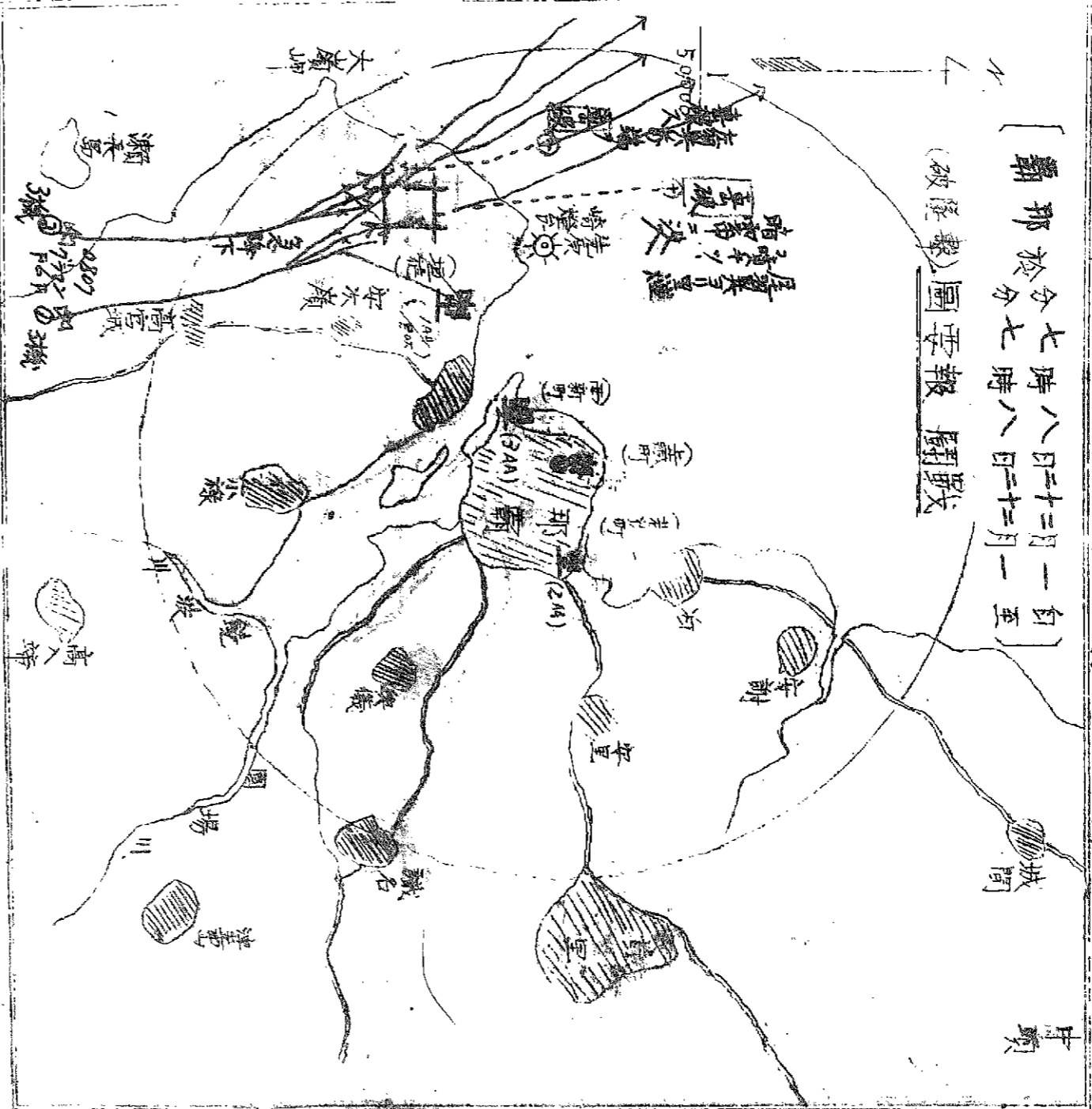
50000

152  
F4U  
G

隊大九十七第砲射高戦野

[ 轟 那 於 於 七 時 八 日 二 月 一 旬 至 ]

(破陸撃) 圖要報 闘野



可標	時刻	機種	機数	射撃機	観測高度	射撃高度	射撃距離	倍射	倍射機	機明	効果	結果
1	0807	F4U	3	120	600	120	350	10	機明	効果	結果	
2	0807	"	3	4	500	120	400	10	機明	効果	結果	



野戰高射砲第七十九大隊 (一月二十二日第二波主要航跡)

要圖ノ五

附記 九時三十分上至三時敵飛ヲ見ズ

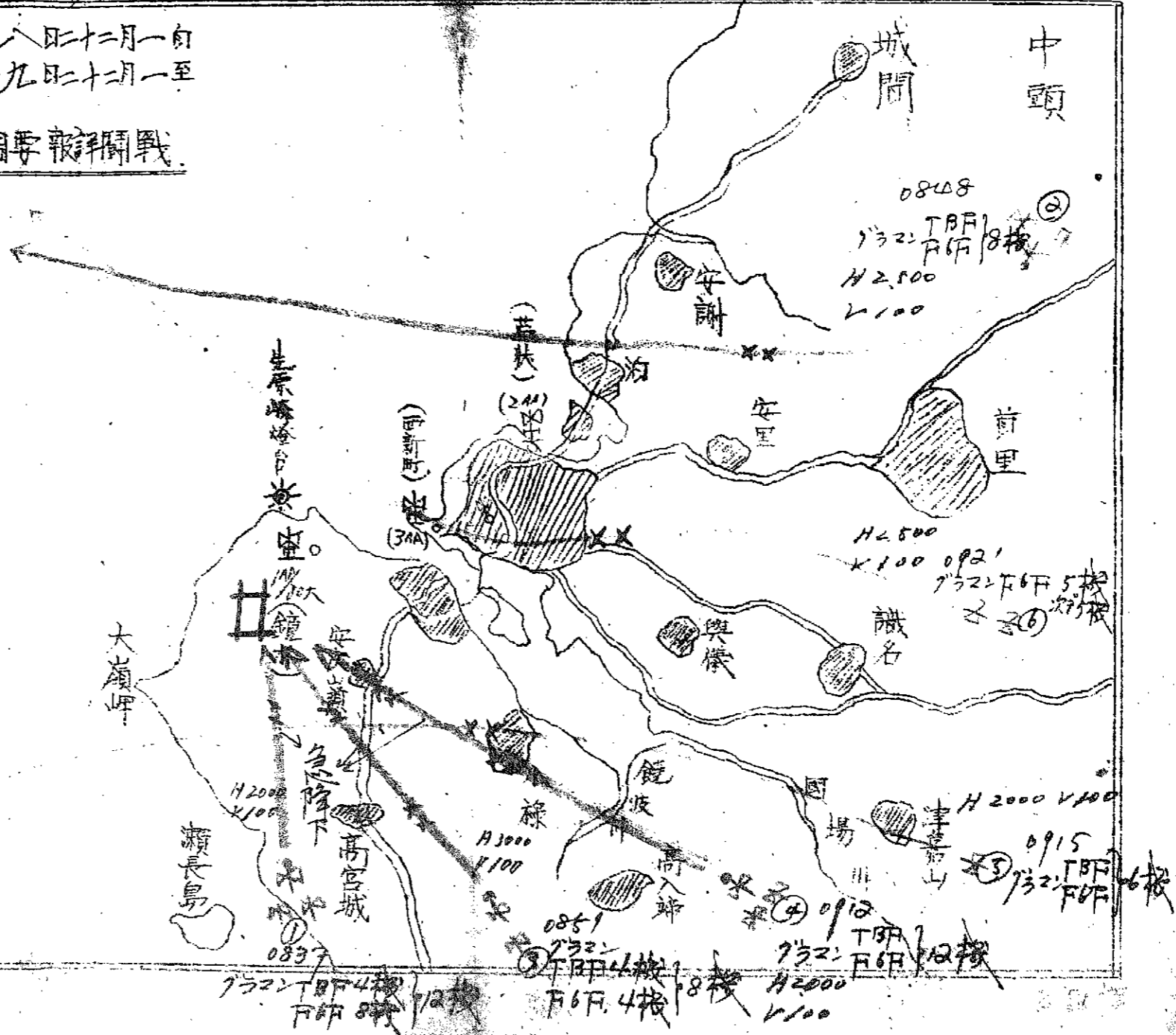
自一月二十二日八時十分起

至一月二十二日九時十分止

戰闘詳報要圖其五

50000

ハブラン F4 四機ヲ示ス  
 ハグランド F4 四機ヲ示ス  
 ハ射撃位置ヲ示ス



野戰高射砲第七十九大隊

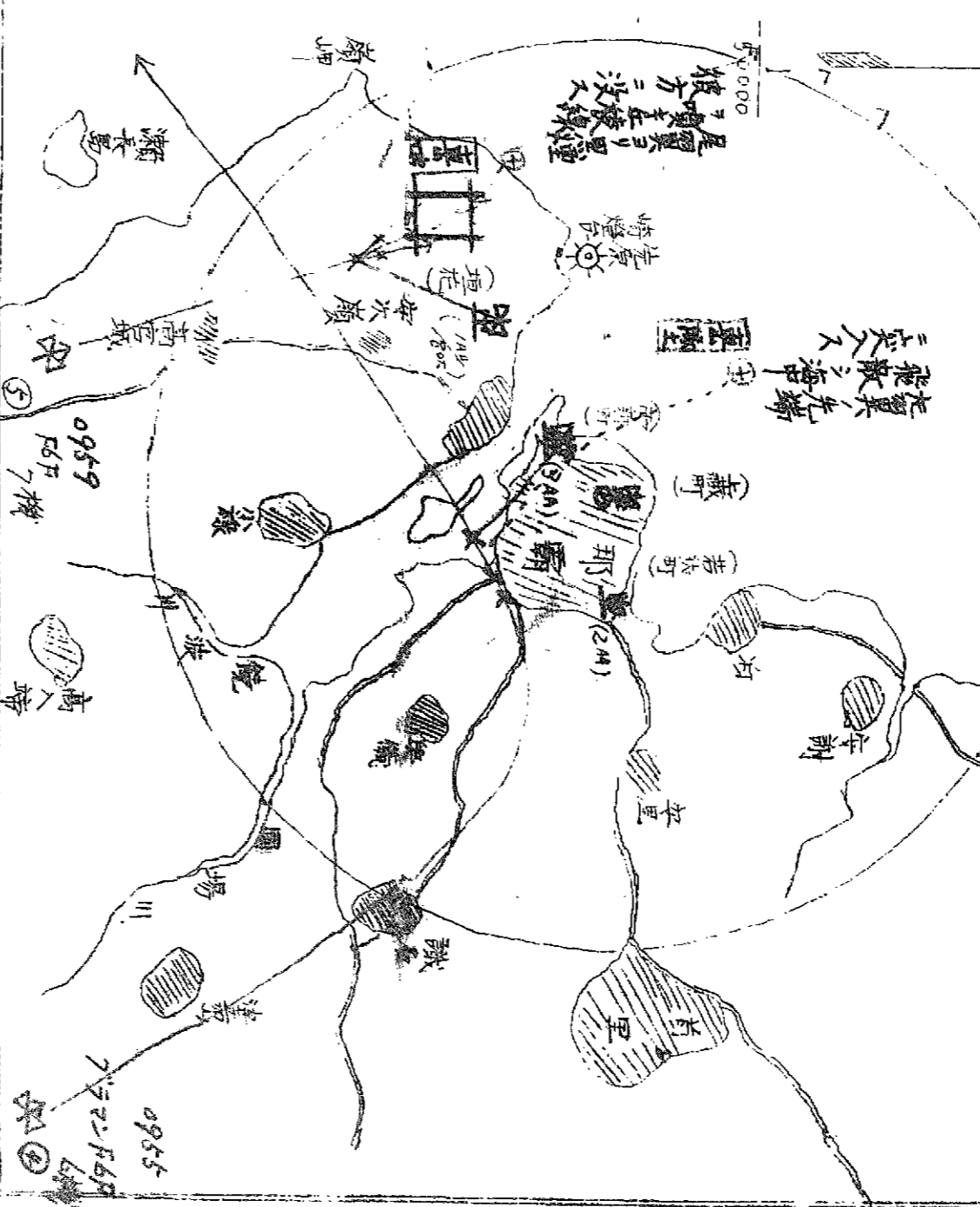
附圖



# 隊六九十七 砲射高野

[ 霸 邪 於 五 時 九 分 一 月 一 日 至 九 時 五 分 一 月 一 日 ]  
 ( 坡 擊 ) 圖 示 射 擊 圖 狀

中 頭



時刻	機種	機數	射擊中	彈測	彈測高度	距離	射擊高度	距離	停射	管等	使用	效果	備註
4 0955	7322 F6F	6	3A	3150	95	3200	100				7	轟破	機數不明
5 0959	"	7	M	500	120			43			10	轟破	機數不明

